

助産師のクリニカルラー

※レベル表記の（ ）内はJNAラダーのレベルとする

		レベルⅠ（新人）	レベルⅡ（レベルⅠ）	レベルⅢ（レベルⅡ）	レベルⅣ（レベルⅢ）	レベルⅤ（レベルⅣ）
到達目標		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる	1. 健康生活支援の援助※のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる 3. 支援を受けながら、基礎的な知識・技術・態度を身につけ、ウイメンズヘルスケアができる	1. 助産過程を踏まえ個別的なケアができる 2. ローリスク／ハイリスクの判別および初期介入ができる 3. 特徴的な事例についてウイメンズヘルスケアができる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産婦・新生児の助産ケアを実践できる 2. ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる 3. ウイメンズヘルスケアを自律して実践できる	1. 創造的な助産実践ができる 2. ローリスク／ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかわりができる 3. ウイメンズヘルス家において、スタッフに対して教育的な関りができる。
倫理的 感応力	のケア 姿勢	①ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる ②ケアリングの重要性が理解できる ③ケアリングの主要な概念をもとに行動できる （知ること／共にいること／誰かのために行うこと／可能にする力を持つこと／信念を維持すること）		①ラダーレベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる （ケアリング実践のための自己課題を明確にできる）		②ケアリングの意味、主要概念や理論について、後輩・同僚に説明できる ③ケアリングの意味、主要概念や理論に基づいた実践のために、後輩・同僚に教育・指導的役割が実践できる
		①支援を受けながら、妊産期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断（支援に必要な情報、身体状況に合わせ心理・社会的アセスメントに必要な情報、家族背景）・経過診断に必要な情報を理解できる ②定められたプロフィールに従い、情報収集できる ③指導を受けながら、不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる ④助産ケア基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる		①妊産期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報を自律して収集できる ②不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる ③指導を受けながら、アセスメントに必要な情報を整理できる ④正しい用語、適切な表現で記録できる ⑤妊産期・分娩期・産褥期・新生児期におけるハイリスクの要因について理解し、関連する情報を明らかにすることができる		①対象の個性や心理・社会的側面、家族背景など全体をとらえ、必要な領域に絞って選択的に情報収集できる
妊産期・分娩期・産褥期・新生児期の診断とケア／分娩期の配慮の視点	情報収集	①妊産婦・新生児のバイタルサイン、検査値、身体の諸計測値の正常値がわかる ②産科に関連する解剖生理を理解できる ③支援を受けながら、測定値のもつ意味を理解できる ④支援を受けながら、収集した健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる ⑤周産期の代表的疾患（切迫早産、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤）について病態及び要因が理解できる		①妊産婦・新生児の健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる ②妊産婦・新生児のニーズを明確にできる ③ニーズの優先順位を決定することができる ④ハイリスク ①妊産婦・新生児に起こっている問題を明確にできる ②問題の優先順位を決定することができる		①妊産婦・新生児の健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる ②妊産婦・新生児のニーズを明確にできる ③ニーズの優先順位を決定することができる ④ハイリスク ①潜在する助産問題を明確にできる ②助産ケアによって解決可能な問題と、薬剤の使用等治療を必要とする可能性がある問題を明確に区別し、目標設定できる
		①妊産婦・新生児の現在の状態およびニーズを理解できる ②支援を受けながら、妊産婦・新生児のニーズに沿って目標を設定できる ③支援を受けながら、妊産婦・新生児の状態、問題リスト、目標に一貫性がある計画を立てられる ④5W1Hを踏まえた具体的な計画を立案できる ⑤助産ケア基準・標準助産計画を活用できる		①健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる ②診断した内容から問題の優先順位を考慮することができる		①診断した内容を妊産婦を含めた医療チームで共有できる ②診断した内容や問題の優先順位について指導できる ③緊急時に短時間で必要な情報収集・アセスメントを行い、優先順位を考慮して診断できる
	明確化 （アセスメント） の 診断	①必要に応じて支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる		①健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名を立案できる ②必要時支援を受けながら緊急時に指示された母体・胎児／新生児に必要な計画を立案できる		①妊産婦・新生児における優先度を考え、助産問題に適した方法論を用いて計画を立案できる ②対象の問題を解決するために適切な目標（到達・測定・評価することが可能な目標）を設定できる ③計画立案のプロセスにおいて教育・指導的役割が実践できる
		①基本的助産技術が実施できる ②担当した対象について、助産ケア計画に基づき、基準や手順に則り安全確実に助産ケアを実践できる ③帝王切開術の産婦・新生児の対処が自立してできる ④妊産婦・新生児における緊急時の対処が支援を受けてできる ⑤クリニカルパス使用の場合、パスに沿って実践できる CTG装着と判定 ①CTGによる胎児心拍モニタリングの必要性が理解できる ②正しく装着できる ③各ガイドラインに基づいた判読ができる（異常も詳細に判別できる） ④モニタリング結果に応じた報告・対応ができる		①計画に基づいて妊産婦・家族の反応を確認しながら実践できる ②施設・部署全体の妊産婦・新生児ケア実践において、中心的役割が実践できる ③緊急時に中心的役割が実践できる ④外来において、教育・指導的役割が実践できる ⑤関連する他の保健医療職と連携して実践できる		①助産実践において創造性と刷新性を発揮できる ②多様なアプローチを組み入れて看護・助産ケアが実践できる ③緊急事態にリーダーシップを発揮し対応できる ④常に教育・指導的役割が実践できる ⑤教育・指導的役割のスタッフを支援できる CTGについて下記事項を指導する ①CTGによる胎児心拍モニタリングの適応が理解できる ②正しく装着できる ③各ガイドラインに基づいた判読ができる（異常も詳細に判別できる） ④モニタリング結果に応じた報告・対応ができる
	計画立案	①助産行為を行う前に必ず説明できる ②新人研修の内容を確実に実施できる ③支援を受けながら、受持ち妊産婦・新生児の助産ケア計画に沿ってケアを実践できる ④治療および診断上必要な観察を行い、適切に報告できる ⑤指示された業務を、助産ケア基準・手順に沿って正しくかつ安全に実施できる ⑥帝王切開術の産婦・新生児の対処が支援を受けてしてできる ⑦実施した結果を看護記録基準に沿って正しく記録できる ⑧妊産婦・新生児における緊急時の対応を理解している ⑨妊産婦・新生児における緊急時に人を呼ぶことができる ⑩妊産婦・新生児における緊急時に必要な物品を知り、手順に沿って日々の点検・整備ができる		①提供したケアについて、妊産婦・新生児・家族のニーズに合ったか評価できる ②後輩・学生のロールモデルとなっているか自己評価できる		
		①提供したケアの結果を正確に報告できる ②ケアにおいてわからないことが言える				

			レベルⅠ（新人※JNAのラダーレベル）	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
看護ケア実践能力			①基本的看護技術については、新人看護職員研修ガイドラインにおける看護技術についての到達目標が達成できる ②指導を受けて、耳鼻科・泌尿器科の処置や治療の管理ができる。（耳鼻科術後創処置・膀胱洗浄・腎臓の管理・膀胱灌流の管理・膀胱造影の準備等） ③指導をうけて、化学療法の実施と観察ができる ④指導を受けて、耳鼻科・泌尿器科・眼科・全身麻酔・腰椎麻酔の手術出しと術後の管理（観察・ケア・ドレーン管理）ができる ⑤急変の場面では、スタッフコールが押せる。指示に沿ってコードブルーでき、AEDや救急カートなどの必要物品を持って行く。指示に沿ってBLSを実施する。 ⑥衝撃を受けている家族の気持ちのつらさに気づき助言を受けながらコミュニケーションをとる。	①患者の症状や個性性を考慮して、標準的な看護計画を追加・変更し、自立してケアを実践できる 重症患者や医療依存度の高い患者に対しても自立してケアを実践できる ②自立して、耳鼻科・泌尿器科の処置や治療の管理ができる。（耳鼻科術後創処置・膀胱洗浄・腎臓の管理・膀胱灌流の管理・膀胱造影の準備等） ③自立して、化学療法の実施と観察ができる ④自立して、耳鼻科・泌尿器科・眼科・全身麻酔・腰椎麻酔の手術出しと術後の管理（観察・ケア・ドレーン管理）ができる ⑤急変時には、指示された処置やケアを自立して実践できる ⑥緊急時にSBARを用いて主治医への報告、家族への連絡ができる ⑦衝撃を受けている家族の気持ちのつらさに気付く事ができコミュニケーションをとることができる	①患者の顕在的・潜在的ニーズにこたえるために疾患の予後と治療による影響、患者の生活を考慮し、幅広い選択肢の中から適切なケアを提案実施する。 ②患者に対して指導する場合、予測的な視野を持ち、患者の思い理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明する。その際、患者の生活習慣や価値観、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案する。 ③急変時には原因や今後の展開を予測しながら、患者及家族（またはそれを取り巻く人々）への対応と今後の準備ができる。 ④急変時には落ち着いた対応し家族（またはそれを取り巻く人々）等の心理状態に沿った配慮ができる。	①患者の顕在的・潜在的ニーズにこたえるために疾患の予後と治療による影響、患者の生活を考慮し、幅広い選択肢の中から適切なケアを提案実施する。 ②患者に対して指導する場合、予測的な視野を持ち、患者の思い理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明する。その際、患者の生活習慣や価値観、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案する。 ③急変時には原因や今後の展開を予測しながら、患者及家族（またはそれを取り巻く人々）への対応と今後の準備ができる。	①どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアを選択できる ②コミュニケーションに長けており、各患者に適切な対応ができる ③ケアの開発のための努力を継続して行う ④患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用い患者の尊厳を尊重し、QOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践できる。患者の疾患の予後と治療による影響により、患者の希望に沿った生活が困難な状況であっても患者の希望や価値観、尊厳を尊重し、新たな生活の可能性を広げるケアを提案する。 ⑤急変時には、複雑な病態の患者においても、原因や今後の展開を予測しながら、患者及び家族（またはそれを取り巻く人々）への対応と今後の準備ができる。
	教育	教育・指導	①継続教育プログラムの意義を理解できる ②支援を受けながら、自己のレベルに合った院内・院外の研修や勉強会に積極的に参加できる ③支援を受けながら学生指導など教育する機会を引き受けすることができる	①継続教育プログラムに自主的に参加できる ②自己のレベルに合った、院内・院外の研修や勉強会に積極的に参加できる ③支援を受けながら、ローリスクを対象とした保健指導が実施できる（個別・小集団） ④教育・指導についての基本的事項を理解できる ⑤支援を受けながら、受持ち助産師の役割が果たせる ⑥プリセプティや学生への教育的支援ができる	①継続教育プログラムや院内・院外研修に、目的をもって自主的に参加できる ②施設における教育指導に参加できる（新人や後輩、学生への指導） ③ローリスクを対象とした保健指導が実施できる（個別・小集団） ④教育における評価が理解できる	①後輩、学生の指導において中心的役割を担うことができる ②病棟内の学習会で中心的役割を担うことができる ③施設内の教育（後輩や学生）について企画運営に参画できる ④成人学習のプロセスについて、基本的事項を理解できる ⑤あらゆる対象への保健指導を実施できる	①自己のキャリアや専門性を踏まえ、計画的に院内・院外の継続教育プログラム・研修に参画できる ②施設内の教育（後輩や学生）につける ③②について、他部門との連携も考慮して企画運営できる ④病棟内の目標を達成するために、後輩が具体的に行動できるよう支援できる ⑤教育に関する知識を活かして、後輩が能力を活かせるよう支援できる ⑥保健指導に関して教育指導的な役割を担うことができる
専門的自律能力		自己開発	①日々の行動を振り返り、整理することができる ②他者のアドバイスを素直に受け止めることができる ③支援を受けながら、自己評価と他者評価を踏まえた自己の学習課題を考えることができる ④支援を受けながら、課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ⑤支援を受けながら、学習の成果を自らの助産実践に活用できる	①自己評価と他者評価を踏まえた自己の学習課題を考えることができる ②課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ③学習の成果を自らの助産実践に活用できる	①自己課題を明確にできる ②主体的に、課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ③学習の成果を自らおよび施設における助産実践に活用できる	①自己のキャリアや専門性を踏まえ、計画的に院内・院外の継続教育プログラム・研修に参加できる ②専門分野を深めるための自己課題を明確にし、取り組むことができる ③取り組んだ結果を実践に活用できる	①自分のキャリアプラン（教育・管理・実践）を計画できる ②計画を実行するための具体的な方法を考え、進むことができる
		研究	①院内外の研究発表会に参加し、研究に関心をもつことができる	①日常の行動の中で「なぜそうするのか」を考えることができる ②自らの関心に合わせて、院内・院外の研究発表会に参加できる	①日常の実践から、研究疑問を見出すことができる ②メンバーの一員として研究に参画できる	①研究的取り組みを計画し、スタッフとともに実践できる ②研究的取り組みの結果を発表できる	①研究的取り組みの結果を臨床実践で応用できる ②研究的取り組みを進め、結果を院内・院外に広めることができる
コミュニケーション（対人関係）			①対象のニーズを身体・心理・社会的側面から把握するように努められる ②対象を一個人として尊重し、傾聴・共感的な態度で接することができる（笑顔、挨拶、自己紹介、言葉遣い、約束を守るなど） ③対象中心のサービスであることを認識して接するように努められる ④言語的・非言語的コミュニケーション技法について理解できる ⑤支援を受けながら、対象が納得できる説明を行い、同意を得られる ⑥守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮できる ⑦5W1Hを踏まえてメモをとり、正確に伝達できる	①対象のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる ②対象中心のサービスであることを認識して接することができる（忙しさを自らの業務中心にならないよう努める） ③言語的・非言語的コミュニケーション技法を用いてコミュニケーションできる ④対象が納得できる説明を行い、同意を得られる	①妊産婦の言動を手がかりに潜在するニーズや問題に気づき、理解することができる ②助産計画の修正・追加時などに、主体的に対象・家族が納得できる説明を行い、同意を得られる ③自己の感情をコントロールし、専門職として患者・家族に対応ができる	①自分の対応が相手に与える影響を予測しながら行動できる ②妊産婦・家族の反応の変化を見逃さず、受け止めることができる ③状況に応じてアサーティブなコミュニケーションをとることができる ④関連職種との間においても、良好な関係を維持できるようなかわりができる	①対象・家族と、よりよいパートナーシップが築ける ②直接的助産ケアを行いながら、対象・家族の反応、周囲の状況を把握し、対象・家族を尊重した適切なコミュニケーションを図ることができる ③コミュニケーションに関して、教育指導的な役割を実践できる
職業倫理・地域貢献			①厚生連および当院の理念や看護部方針を理解し、看護職の倫理綱領・ICM-助産師の国際倫理綱領やコンプライアンスマニュアルや就業規程（例えば、看護職としての社会的責任・個人情報保護・ハラスメント防止・時間外や休暇の届け出など）を確認し、支援を受けて行動ができる。 ②佐渡地域の特性と当院の役割（例えば、基幹病院・災害拠点病院など）を理解し、支援を受けて行動できる。 ③接遇マニュアルに沿って、社会人として身だしなみに注意し、適切な行動がとれる。	①厚生連・院内の研修や地域に向けた活動の場（例えば、災害訓練・看護協会活動・母親学級・病院際・島内の教育に関する研修への参加・医療介護連携に関する活動など）で、厚生連や当院の役割（例えば基幹病院・災害拠点病院など）や責務を認識した行動がとれる。 ②コンプライアンスマニュアルや就業規程を理解し（例えば、個人情報保護・ハラスメント防止・時間外や休暇の届け出など）責任をもって行動できる。 ③規範に反する他者に対して、意見を伝えることができる。 ④看護職の倫理綱領・ICM-助産師の国際倫理綱領や倫理原則を理解し倫理的課題の発生時には、速やかに上席者に報告できる。	①厚生連・院内の研修や地域に向けた活動の場（例えば、災害訓練・看護協会活動・母親学級・病院際・島内の教育に関する研修への参加・医療介護連携に関する活動など）に主体的に参加し、厚生連や当院の役割（例えば基幹病院・災害拠点病院など）や責務を認識して行動がとれる。 ②コンプライアンスや就業規程（例えば、個人情報保護・ハラスメント防止・時間外や休暇の届け出など）を認識し、自立した行動がとれる。 ③規範に反する他者に対して根拠を持って意見を伝え、理解を求めることができる。 ④看護職の倫理綱領・ICM-助産師の国際倫理綱領や倫理原則を認識し、倫理的課題を認識しながら業務を遂行でき、課題発見時にはカンファレンスなどでメンバーに問題提起できる	①厚生連・院内の研修や地域に向けた活動（例えば、災害訓練・看護協会活動・母親学級・病院際・島内の教育に関する研修への参加・医療介護連携に関する活動など）の企画運営に関わり、厚生連や当院の役割（たとえば基幹病院・災害拠点病院・など）や責務を認識して自己の立場で意見を述べられる。 ②コンプライアンスや就業規程（例えば、個人情報保護・ハラスメント防止・時間外や休暇の届け出など）を認識して役割モデルとして行動できる。 ③規範に反する他者に対しては根拠をもって意見を伝え、支援の場面で関与することができる。 ④看護職の倫理綱領・ICM-助産師の国際倫理綱領や倫理原則をもとに、部署における倫理的課題を発見し、課題解決に向けた対応策の検討と実践ができる。	①厚生連・院内の研修や地域に向けた活動の企画運営に主体的に関わり、厚生連や当院の役割（基幹病院・災害拠点病院など）や責務を認識して自己の立場で相談を受け、指導ができる。 ②コンプライアンスの遵守のために周囲の人々への周知や、指導を行い役割モデルとして行動できる。 ③看護職の倫理綱領・ICM-助産師の国際倫理綱領や倫理原則をもとに、倫理的課題について看護部として改善に向けた対応策の提案を行い、関連する部署との調整が行える。

			レベルⅠ（新人※JNAのラダーレベル）	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
管理（マネジメント）	安全		安全管理・安全確保 ①支援を受けて、自施設における医療安全管理体制について理解できる ②支援を受けて、インシデント事例や事故事例を速やかに報告できる ③インシデント事例や事故事例についての報告・記録が支援を受けてできる ④周産期に起こり得る事故について、支援を受けながら対策をとることができる（新生児の取り換え、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、やけど、盗難など） 感染予防 ①支援を受けて、自施設における感染予防管理体制について理解できる ②①に則って指導を受けて行動できる（スタンダードプリコーション、必要な防護具選択、衛生的な手洗い、無菌操作、清潔・不潔の区別、医療廃棄物規定に則った適切な取り扱い等） 災害・防災管理 ①自施設における災害・防災管理体制について理解できる ②自部署の管理体制（消火設備、避難経路）などがわかる ③②に基づいて支援を受けて日常的に行動できる（病室の電子錠の確認、面会者の確認など） ④災害発生時の初期対応がわかる ⑤定期的な災害訓練に参画できる 情報管理 ①自施設における情報管理体制について理解できる ②①に基づいて自立して行動できる（記録、PC、パスワード、患者情報など）	安全管理・安全確保 ①自施設における医療安全管理体制について理解できる ②インシデント事例や事故事例について、先輩とともに経過を振り返ることができる ③インシデント事例や事故事例についての報告・記録ができる ④周産期に起こり得る事故について、予測でき対策をとることができる（新生児の取り換え、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、やけど、盗難など） 感染予防 ①自施設における感染予防管理体制について理解できる ②①に則って自立して行動できる（スタンダードプリコーション、必要な防護具選択、衛生的な手洗い、無菌操作、清潔・不潔の区別、医療廃棄物規定に則った適切な取り扱い等） 災害・防災管理 ①自施設における災害・防災管理体制について理解できる ②自部署の管理体制（消火設備、避難経路）などがわかる ③②に基づいて日常的に行動できる（病室の電子錠の確認、面会者の確認など） ④災害発生時の初期対応がわかる ⑤災害時、指示に従い、④の行動ができる 情報管理 ①自施設における情報管理体制について理解できる ②①に基づいて自立して行動できる（記録、PC、パスワード、患者情報など）	安全管理・安全確保 ①インシデント事例や事故事例について、経過を振り返ることができる ②インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら今後に活かせる対策を考えることができる ③周産期に起こり得る事故を予測でき、対策をとることができる（新生児の取り換え、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、やけど、盗難など） ④事故発生時、対象の生命を優先して判断し行動できる 感染予防 ①自施設の体制に則って行動できる 災害・防災管理 ①災害時に、主体的に初期対応が実践できる 情報管理 ①自施設の体制に則って行動できる	①療養環境が安全であるか常に配慮し、調整できる ②アクシデント・インシデント・感染防止・災害対策に関して中心的役割を担うことができる ③職員の安全が確保できる職場環境を整えるために取り組める ④医療機器を安全に使えるように環境調整できる ⑤備品・医療材料に関する法令（PL法など）に関心をもつことができる	①療養環境が安全であるか常に配慮し、後輩に教えることができる ②インシデント・アクシデント報告から、看護単位における問題を発見できる ③②の問題に対して、管理監督職とともに解決策を考えることができる ④対策を実施し、その結果を評価、フィードバックできる
			①支援を受けながら、費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる ②支援を受けながら、対象の負担を考慮して、物品を適切に使用できる ③支援を受けながら、時間の使い方を考えることができる ④SPD、MC室の請求物品、請求の方法が理解できる。	①費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる ②対象の負担を考慮して、物品を適切に使用できる ③支援を受けながら、時間内に必要な助産ケアができる	①費用対効果を考慮して、自ら工夫して物品を適切に選択・準備・使用できる ②対象の負担を考慮して、対象の意見を聞き、自ら工夫しながら物品を適切に使用できる ③自ら調整して、時間内に必要な助産ケアができる	①自施設の物流システムを理解できる ②診療報酬制度などの医療政策に関心をもつことができる ③物品・薬品の管理について経済性を考慮できる	①自部署の物品管理を積極的に行うことができる ②看護単位における予算の流れが理解できる ③診療報酬制度が理解できる
			①チーム医療の構成員としての役割を理解して協働できる（報告・連絡・相談ができる、事実を正しく報告できる） ②同僚や他の職種とコミュニケーションできる ③職場の運営方針・目標が理解できる ④係活動に参加し、その役割を理解できる	①チーム医療の構成員としての役割を理解して協働できる（報告・連絡・相談ができる、事実を正しく報告できる） ②同僚や他の職種と必要なコミュニケーションをとることができる ③職種による考え方の相違を理解できる ④リーダーの役割を理解できる ⑤職場の運営方針・目標が理解できし、行動できる ⑥係、委員会活動に参加し、その役割を理解して行動できる	①よりよいチームワークを目指して的確に行動できる ②リーダーシップの概念が理解できる ③助産チームの業務が円滑かつ的確に実施できるよう、チームメンバーに指示できる	①助産業務における調整機能を発揮できる ②他部門と連携・調整できる ③後輩からの相談を受け、支援できる ④他者の目標達成の支援ができる ⑤自主的に目標達成に向けた取り組みができる	①看護部や看護単位の目標に基づいた活動を推進できる ②看護単位における委員会や係、会議の推進ができる ③看護単位の業務改善に主導的な立場で取り組むことができる ④後輩と師長・監督職とのパイプ役となれる ⑤自己の判断でできることと、できないことが区別できる ⑥所属の委員会、会議においてリーダーシップを発揮することができる